

須崎市立多ノ郷小学校 英語科 授業づくり講座

All for one!
みんなで
取り組む

発行
令和3年
1月4日
中部教育事務所



第5学年 Unit6 「I want to go to Italy.」 光村図書
授業者 伊藤雄大 教諭
指導案作成・検討
チーム伊藤
チーム植田
チーム角

教材研究会は、指導案バトルで切磋琢磨



単元目標【学習指導要領】 話すこと（発表）ウ、書くこと イ

多ノ郷小学校「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標

話すこと（発表） 前もって用意された内容で、国や地域に関することなどを簡単な語句や基本的表現を用いて、できるだけたくさん話すことができる。
書くこと 自分のことや身近で簡単な事柄について、語順を意識しながら、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を書き写すことができる。

単元計画

導入（1～3）

第1時 世界の国々に興味を持ち、国名の言い方に慣れ親しむ。
・担任やALTが国を紹介し、本単元の見通しを持つ。
・国名の言い方に慣れ親しむ。（ポインティングゲームなど）

第2時 世界の国でできることを伝える言い方を知る。（Let's watch）（Let's listen）
・世界の国でできることを伝える言い方に慣れ親しむ。（チャンツ）（国旗カルタ：ALT）

第3時 世界の国でできることを伝え合う。（国旗カルタ：児童同士）（国当てクイズ）

中盤（4～6）

第4時 行きたい国や、その国でしたいことを伝える言い方を知る。（Let's watch）（Let's listen）
・"I want to go to～"の表現を書く。

第5時 いくつかの国の中から行きたい国やその国でしたいことを伝え合う。（発表：知識・技能）

第6時 自分の行きたい国についてのポスターを作る。（書く：知識・技能/思・判・表）

終末（7・8）

第7時 行きたい国や、その国でできることを紹介する言い方に慣れ親しむ。（第5時でC評価だった児童に個別指導を行い、改善が見られた場合は記録に修正を加える。）

第8時 自分たちの夢の旅行プランを発表し合う。（発表：思・判・表 / 態度）
（本時C評価だった児童については、別時を設定して個別支援を行い、改善が見られた場合は記録に修正を加える。）



評価計画

第5時 話すこと（発表）
・"I want to go to"や"You can"などの表現について理解する。（知識）
・世界の国々について、学習した表現を用いて、その国でできることを伝える技能を身に付ける。（技能）

第6時 書くこと
・行きたい国について、"I want to go～"や"You can～"などの表現をなぞり書きしたり、国名などを選んで書き写したりする技能を身につける。（技能）
・国の魅力を紹介するために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、国名やその国でできることなどを書く（思考・判断・表現）/書こうとする。（主体的に学習に取り組む態度）

第8時 話すこと（発表）
・自分が行きたい国の魅力を紹介するために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、その国でできることなどを発表する。（思考・判断・表現）/発表しようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

本時の展開

児童の活動

振り返り・導入
【Greeting】（3分）
【Small Talk】（5分）
・ゲストティーチャーの夢の旅行プランを聞いて、本時の活動への意欲を高める。

指導上の留意点

指導者によるデモ
Hello. I want to go to Bolivia. You can visit Uyuni salt lake. It's very beautiful. What food do you like? You can eat Saltena. Beef and chicken. I like beef. Do you like beef? Thank you.

Today's point 夢の旅行プランのみりよくを紹介しよう。

展開

【Let's try1】（12分）
・2グループずつ3箇所に分かれて発表し合う。（発表4分 評価2分）

児童の発言例

Hello. I want to go to America. You can visit the Statue of Liberty. You can see major league baseball. Do you like baseball? I like baseball. You can eat hamburger. It's delicious. What food do you like? Thank you. (A評価)

Hello. I want to go to America. You can visit the Statue of Liberty. You can see major league baseball. I want to eat hamburger. Thank you. (B評価=全員に達成させたい内容)

*担任とALTと他教員の3人が各発表グループに付き、話すこと（発表）【思考・判断・表現】の評価を行う。

展開・まとめ

【中間評価】（8分）
・友達の発表の良かったところを伝え合う。

予想される児童の反応

○味を伝えていて魅力が伝わった。
○ジェスチャーがあると分かりやすかった。
○相手の目を見て紹介していた。

*既習事項を使って言おうとしている児童を評価して、表現の幅を広げられるようにする。

【Let's try 2】（12分）

・ペアになるグループを変えてもう一度発表し合う。
・児童のつまづきが見られた言語表現を全体で確認する。

ふり返り

【Refraction】（5分）
・ふり返りカードを記入する。
・本時のふり返りを伝え合う。
・ALTから良かったところを伝える。

予想される児童の反応

○知らない国のことが知れて行ってみたいになった。
○習った英語がたくさん使えた。
○～さんの発表が、相手に質問などもして良かった。

In Korea, you can eat spicy ramen.

どのくらい辛い？

え！？…
Super spicy!!



教材研究会で寺倉研究主任から提示された外国語活動・外国語科で大切にしたい4つの視点「①相手意識を持って言語活動に取り組ませる、②必然性のある場面設定を行う、③本物の活動を目指す、④コミュニケーションの楽しさや意義を子供達に実感させる」は、全面実施となった小学校学習指導要領（平成29年告示）の趣旨であり、誰もが授業をつくる上で大切な視点である。その後多ノ郷小学校は再度そこに立ち返り、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に改めて着目し「子供達はその場面設定で本当に話したくなるか（思考・判断・表現できるのか、子供達の実態に合っているのか）」を最優先に考え、当初とは場面設定をガラリと変えた授業研究会となった。また、中間評価ではコミュニケーションポイントに特化せず付けたい力に基づき、発表の内容を再構築するのに効果的であった児童の質問を取り上げて全体で共有することで、その後の言語活動において多くの子供達の流ちょうさや内容を向上させることができていた。単元を通して音に十分に慣れ親しませながら、相手意識を持って自分の思いがよりよく聞き手に伝わるよう、最後まで子供達に思考させ続けた。

『日常的に授業研究に取り組む風土づくり、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成』とは…

多ノ郷小学校では全教員が3チームに分かれ指導案を作成している。チーム長は推薦や立候補で決まる。大事なことは先生方がどのチームに入りたいか。そこでチーム長は『こんな研究をしていきたい！』と自分の気持ちを発表し（時には文書で示す）、その内容によって先生方は参加するチームを決める。今回はチーム長を授業者の伊藤教諭、植田教諭、角教諭とし、各チームが作成した指導案を持って教材研究会を指導案バトル大会へと変容させた。

授業研究会では授業を行う伊藤教諭の後ろに全教員で支えよう、一緒に学ぼうとするチーム多ノ郷小の姿があり、他校の先生方から共感の声が多数上がっていた。研究推進のためのテーマ「PASSION」の下、授業者任せ・担任任せにせず、チームや学年団等の組織として研究を推進する姿は多くの学校の参考となるものであり、何より先生方の楽しそうな笑顔が、持続可能な研究推進の一つとして例を示してくれている。